

日本語教師募集！

キルギスの 11 年生学校「ピリムカナ・カント校」

キルギスから日本語教師募集のお知らせです。ビシケク郊外にある 11 年制学校で、この 9 月から全学年で日本語の学習を始めることになりました。

募集人数は 1 名ないし 2 名。やる気のある人であれば、年齢、性別、学歴を問いません。条件的に稼ぐことはできませんが、教師経験を積み、ロシア語もしくはキルギス語を学習するよい機会になります。

条件は以下の通りです。ご希望の方は、JIC までご連絡ください。

<条件>

受入校:ピリムカナ・カント校(私立の 11 年制学校)

所在地:ビシケク郊外(バスで約 30 分)のカント市

授業数:1 授業 40 分×1 日 3 授業×週 5 日

給 料:月額 150 ドル

宿 舎:ホームステイまたは学校の寮(1 人部屋/無料)

* アパートを希望する場合は自己負担。

特 典:希望によりロシア語またはキルギス語の授業が無料で提供されます(40 分授業×週 3~4 回)。

募集人数:1~2 名

期間:17 年 9 月ないし 10 月から 10 カ月間(延長あり)

* 現地では、伊藤広宣さん(キルギス人文大学・学長顧問)が世話人としてサポートします。

問合せ先:JIC 東京事務所 TEL:03-3355-7294

e-mail: jictokyo@jic-web.co.jp

【近日出版！】

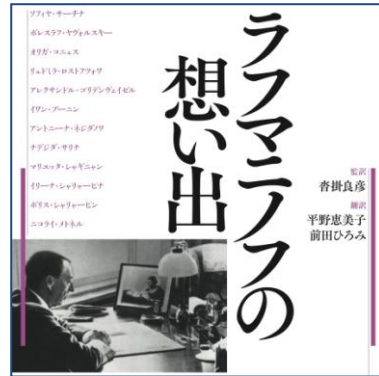
『ラフマニノフの思い出』

ラフマニノフは、チャイコフスキーと並んで最も人気のあるロシアの作曲家の 1 人です。そのラフマニノフとの交流や思い出を語る回想録が出版されます。

ここに収められた回想は、従妹のソフィヤ・サーチナや作家のマリエッタ・シャギニャンなどの筆によるもので、ラフマニノフ研究の最初期から資料としてしばしば用いられてきました。これまで論文などで部分的に紹介されることはありましたが、全文の翻訳は本邦初です。と言っても小難しい研究書では決してなく、家族やラフマニノフを親しく知る芸術家が、その人間的な横顔を語ります。偉大な音楽家の生涯に新たな光を当てる資料としても、ロシア革命前後の時代を生きた人々の生の証言としても、当時の芸術文化や音楽生活を知る上で、大変貴重な資料です。

ラフマニノフの音楽が好きな人は、本人がどのような人だったか知りたいと思うのではないのでしょうか。作品がどんなに

素晴らしくても、人間的には理解し難い芸術家もいますが、ラフマニノフは人気や名声に溺れることなく、勤勉で高潔、温かい人柄で、皆に尊敬され愛されました。1873 年生まれ、《交響曲第 1 番》の失敗と挫折、《ピアノ協奏曲第 2 番》の成功、亡命と欧米での演奏活動…、そういった人生の記録はどこでも簡単に読むことができますが、これらの出来事の陰



にある様々な逸話というのは、ラフマニノフを身近に知っていた人々でなければなかなか知り得るものではなく、またこれまでこのような本はほとんどありませんでした。

寡黙で控えめ、冗談好きで寛大、聴衆から絶大な支持を受けながらも時

に自分の才能を疑い、不安に苛まれる(人間)ラフマニノフの姿とその音楽を生んだ背景が、様々なエピソードから鮮やかに浮かび上がります。

サーチナやシャギニャン以外にも、ゴリデンヴェイゼル、ブーニン、ネジダノフ、メネル他、同時代の著名なロシアの芸術家たちによる十二編を収録しました。

監訳=杏掛良彦

翻訳=平野恵美子・前田ひろみ

翻訳協力=高橋健一郎

出版社:水声社(A5 判/予価:4500 円+税)

発売予定:2017 年 7 月上旬

全国どこの書店でもお求めになれます。お近くの書店や、ネットショップでご予約・ご注文ください(ただし Amazon には、2014 年 5 月以降、同社が再販契約を遵守し定価販売を励行するまで出荷を停止しており、同サイトではお求めになれません)。

◆◆編集後記◆◆

▼今号は、昨年 12 月の日露首脳会談をめぐる 2 つの講演録を収録しました。この 6 月 27 日には北方四島での共同経済活動の実現をめざす調査団が国後島に到着し、視察を開始しました。プーチン訪日で動き出した日ロ交渉の行方を見守りたいと思います。▼夏は観光シーズン。日本に一番近い隣国はロシアです。ロシアには、豊かな自然、音楽・バレエに代表される最高レベルの芸術文化があります。たまにはロシア旅行に出かけてみませんか。▼将来、国後島や択捉島に気軽に観光に出かけられる日が来るといいですね。(F)